

白山の火山活動解説資料（平成 29 年 11 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

29 日未明から同日夜にかけて火山性地震が増加しました。29 日の地震回数は 370 回で、2005 年 12 月の観測開始以来最多となりました。火山活動が高まる可能性が考えられたことから、29 日 08 時 00 分に火山の状況に関する解説情報（臨時）を発表しました。しかし、その後地震回数は少ない状態で経過し、火山活動が活発化する様子は認められていません。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動、噴気など表面現象の発生状況（図 1～5）

29 日 03 時頃から、白山の山頂（御前峰）付近直下を震源とする火山性地震が増加し始め、05 時 06 分には最大規模の地震（マグニチュード¹⁾ 2.8）が発生し、白山市白峰で震度 1 を観測しました。29 日の地震回数は 370 回で、2005 年 12 月 1 日の観測開始以来最多となりました。しかし、29 日夜からは地震は減少し、30 日以降は概ね少ない状態で経過しています。

低周波地震や火山性微動は観測されていません。また、白峰監視カメラ（白山山頂の西約 12km）による観測では山頂部に噴気は認められません。

1) マグニチュード (M) は地震の規模を表します。M の値は暫定値で、後日変更することがあります。

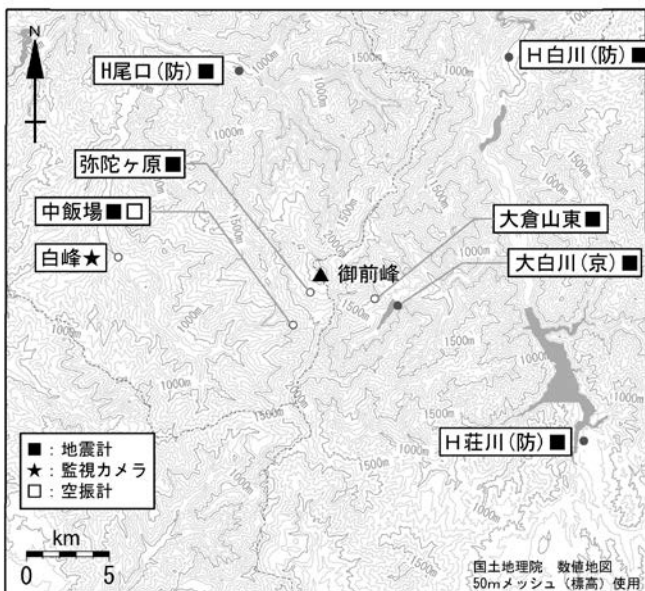


図 1 白山 観測点配置図



図 2 白山 山頂部の状況
(11 月 29 日 白峰監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_vact_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 29 年 12 月分）は平成 30 年 1 月 12 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

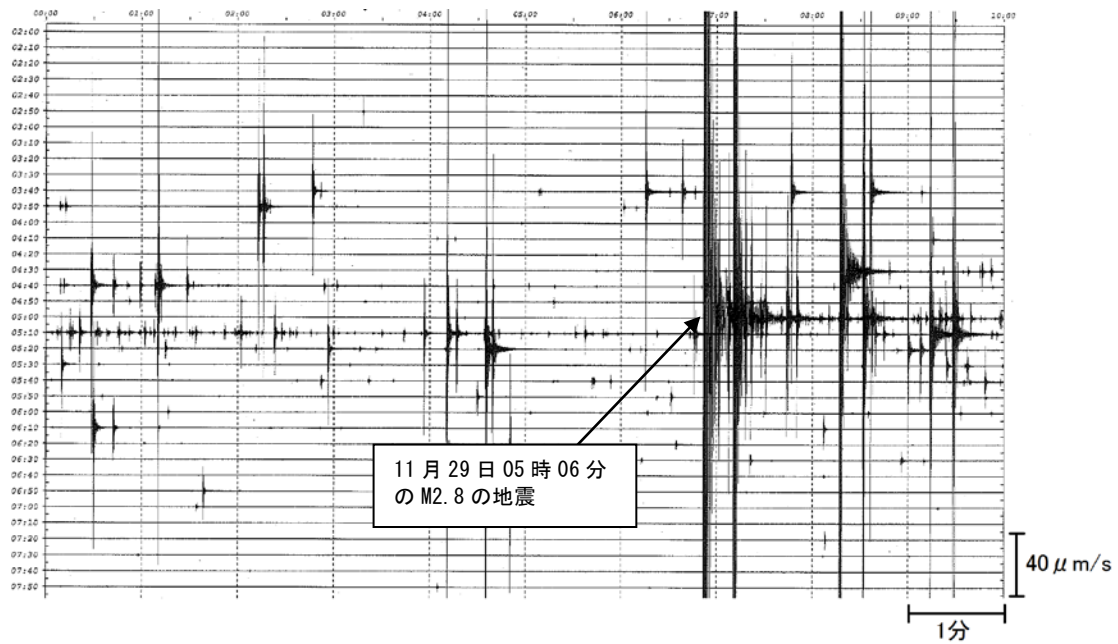


図3 白山 中飯場観測点地震波形（上下動速度）（2017年11月29日02時～08時）

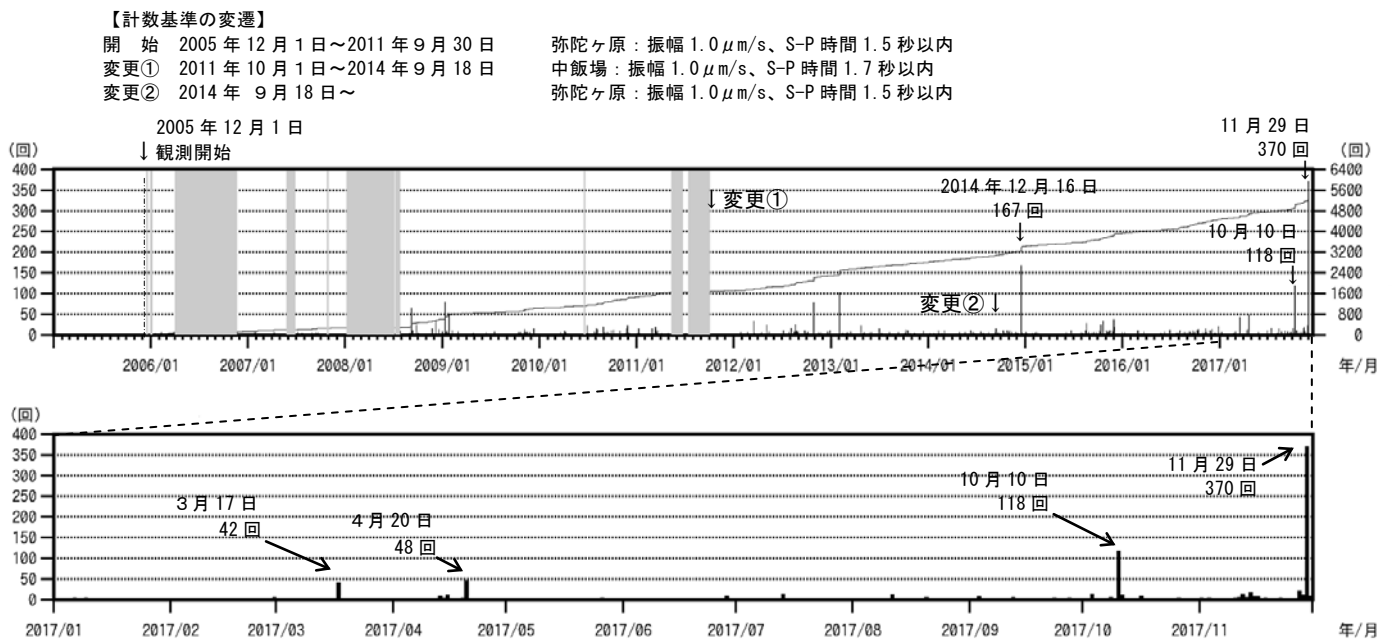


図4 白山 日別地震回数及び地震回数積算
 上段：（2005年12月1日～2017年11月30日）
 下段：（2017年1月1日～2017年11月30日）
 図の灰色部分は機器障害による欠測期間

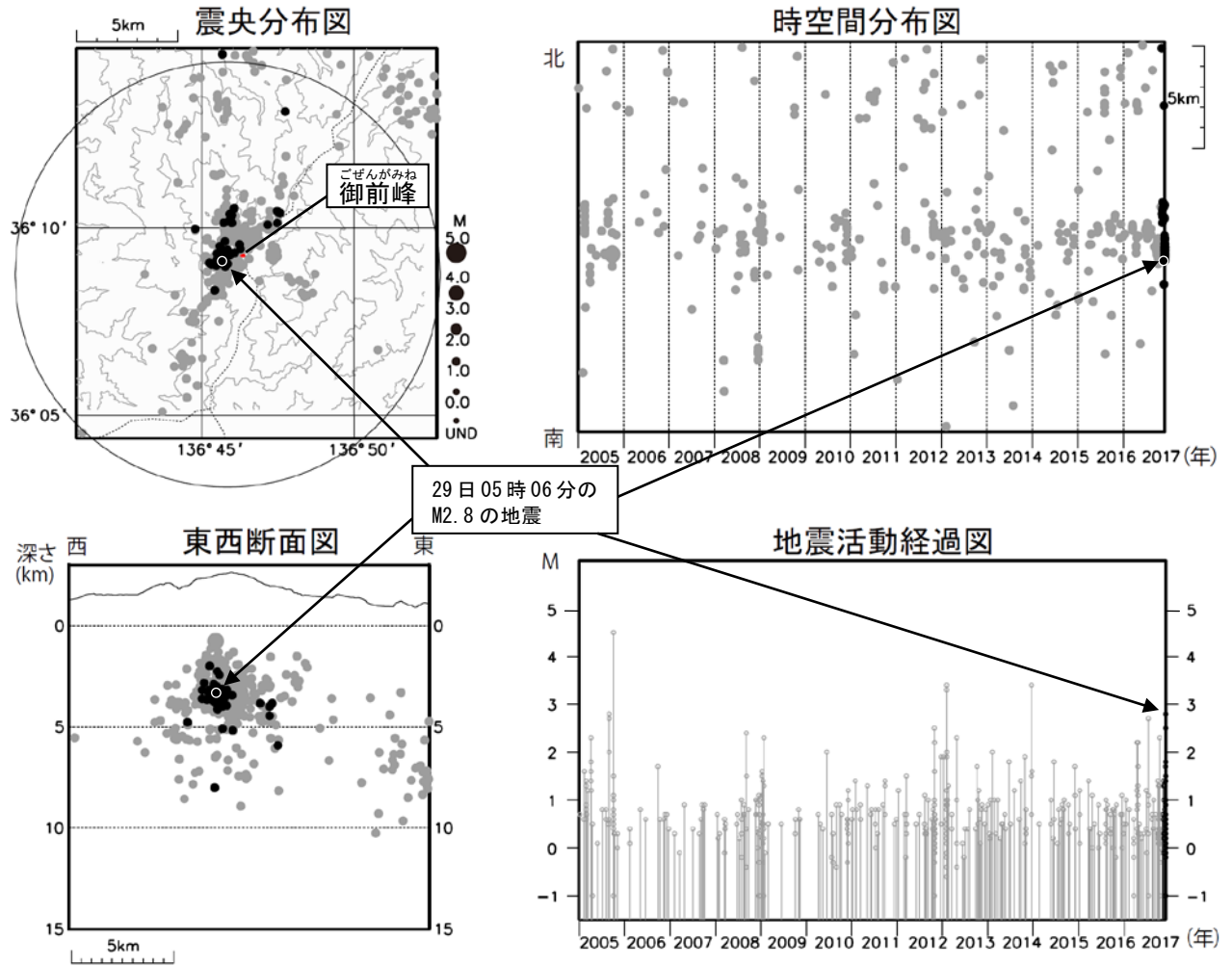


図5 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005 年 1 月 1 日～2017 年 11 月 30 日）

●：2005 年 1 月 1 日～2017 年 10 月 31 日 ●：2017 年 11 月 1 日～11 月 30 日

震央分布図中の円は図4の計数対象地震（弥陀ヶ原観測点でS－P時間1.5秒以内）のおよその範囲を示しています。

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。